

13番（前田法弘君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、これから私、前田法弘、武友クラブ13番、一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今回、一般質問に先立ちまして通告いたしましたのは、大きなテーマとしては、新しいまちづくりについてであります。まちづくりはやはり人づくりが大事であります。人なくしてはまちの形成はありません。成り立つものでもありません。そこに住んでいる人たちの安心、安全を考え、守っていくには、議会、そして行政の責任は重大であります。

さて、今回の一般質問は、観光行政について、これからの観光誘致の方策について、また、がばい事業の今後の展開について、社会教育というふうに書いておりますが、公民館についてお尋ねをします。公共工事における市民への対応、そして、選挙関係について、これは投票場等の選定基準についてお伺いをします。最後に、高校総体について、前回時間が余りなくて、質問を漏らしたこともありましたので、今回、その質問をさせていただきます。関連で、市長、教育長、御答弁をいただきますようお願いいたします。

さて、「全国最年少市長だった武雄市の樋渡啓祐市長が就任してから1年、鮮やかなテレビロケ誘致で武雄の知名度はアップ、その評価は高い。だが、一方では手つかずの課題も多く真価が問われるのはこれからだ」という囲み記事に始まる佐賀新聞の論説、また、その数日後に掲載されました「がばい市長の1年」と題する、これも佐賀新聞の特集記事であります。いずれも市長のスピード行政、アイデア政策には評価を与えられております。しかし、その反面、厳しい内政評価がされているのも事実であります。これらの記事をごらんになったと思いますが、どのようにお考えか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

おはようございます。答弁を開始したいと思います。

見方もいろいろあるなと思っております。佐賀新聞のみならず、今、全国、例えば、読売新聞であったりとか、あるいはNHK、フジテレビ、いろんなことで、今、武雄市政の評価がなされております。これ、いい評価ばかりではありません。そういう意味で、私は1つうれしいのは、たった1年でこれだけ取り上げられるということは、極めてありがたいと思っております。いい評価でも悪い評価でも、武雄というのがそれだけで、私は武雄市長ですので、それだけで武雄が出てくると、そういう意味では私は報道陣の方々に深く感謝をしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

確かに新聞、マスコミ、いろんな批評、批判、またいろんな歓迎等々する言葉を書きます。確かにいろんな意味でスピードアップしたことも事実でありますし、大変評価をされておるようでありますが、やはりこの外向けの樋渡カラーが、この1年間ずっと出てきた。そして、これからまた3年する、その中で、ずっと一般質問の中でもいろんな場所でも、市長はこれからももちろん外向けはやっていくが、これからは中もということで、昨日でしたか、一般質問の答弁のときも副市長が2人もおられるんだから、副市長に内政任せて、外でということもありましたが、副市長2人おられるんだから、副市長に外に出てもらって、市長、また中を一生懸命考えるというの、一つの考え方だと思います。

それで、この新聞に書いてあったというか、このがばい市長1年の上段のほうですけども、この写真、市長は非常に写真とか芸術のほうに造詣が深い方ではありますが、この写真です、ちょうど武雄温泉駅前のところをがばいばあちゃんの横断幕があって、その前を1人の老女がリアカーを引いてある、前を通っている。どなたかは存じておりますけれども、タイミングよくもこういう写真が撮れたものだ、ある意味では、そのがばいばあちゃん、がばいばあちゃんということで、もちろんそのがばいばあちゃんということに対する評価は高うございますが、その中にこの光を浴びる中に、この老女が、まあ、お幾つかはわかりませんが、この戦後の日本を下支えしてきたんだ、そういうことが如実にあらわれると思えますが、市長、この写真ごらんになってどういうふうにお考えですか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

とてもいい写真だなと思いました。私じゃ撮れん写真だなと思って、いいなというふうにしてあります。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

この写真見たときには、本当びっくりしました。ようタイミングようこが写真の撮れたなど、報道の写真、また芸術の写真もいろいろ撮り方あるんでしょうが、すばらしいものだというふうに驚いたところでした。

それでは、そのことを受けてではございませんが、ずっとこの4日間、その一般質問の中には観光行政についてのお尋ねも多々あってあります。ですが、きのう、25番議員さんがお尋ねになっていた、そのいろんなデータですね、そういう数字というものが正確に、またそれを即反映するような数字がすぐ出せるのかということがありました。前回、3月の議会の際に、私は質問しましたときにも、いろんなセクションといいますか、産業分野、農業分野でいろんなその商業、工業の分野の中で、その数字を正確に出してもらいたい、早く出し

てください、その数字がないと対比ができないんじゃないかということをお尋ねしたことがあります。今回もお尋ねをしましたので、今度は正確な数字が出ているんだというふうに思いますが、18年度、とにかく時間がないと言われればそうかもわかりません。18年度と19年度の観光客等々の動向の比較ができますか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

おはようございます。18年度の観光動態調査については、まだ集計ができておりません。現在調査中でございます。それから、19年度についても当然データございませんが、ただ、がばいばあちゃんの関係で、1月から5月までの実績について、幾らか聞き取りをした結果は出ております。

それを申し上げますと、まず、宿泊者の数ですが、1月から5月までの集計で、18年が3万8,976人、それから19年が3万9,076人と、ほぼ前年並みの数字です。これは、武雄市全体の旅館、ホテルじゃなくて、何カ所かの聞き取りでございます。

それから、日帰りについては若干の伸びがありまして、18年の1月から5月までが6万5,305人、それから、19年の1月から5月までが6万9,749人と、日帰りについては昨年の同期より比べますと、約7%の増と。

それから、もう一つ、立ち寄りの客ということで、物産館と、それから、山内にございませ道の駅の調査も行っておりますが、昨年、18年が1月から5月で33万8,142名と、それから、ことし19年が1月から5月で36万1,648人ということで、これも約7%の伸びということになっております。

そういうことで、宿泊については前年並みですが、今、減少傾向の中で前年並みということで、健闘はしているという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

その何件かということでありまして、宿泊する場所というのも、武雄の場合は限られております。そんなに数多く旅館とかホテルがあるわけでもありませんし、こういう数字は速やかにずっと一月おくれぐらい、二月おくれぐらいで次々に数字を出して行って、そして公表して差し支えないというふうに考えます。18年、19年、同1月から5月の月でほぼ横ばい、宿泊のほうがですね、日帰り客は若干の伸びがあるということでもあります。

確かに、今資料をいただいておりますが、1月と3月、特にこの5月には115%というふうに伸びがあります。こういうふうな伸びと申しますか、立ち寄り観光施設等の利用客ですか、これなんぞは1月、2月などは大きな伸びがあるようですが、こういうところの伸びの

背景というのは、どういうことが考えられておられますか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

日帰り客の伸びでございますが、実はがばいの放映が1月4日にありまして、その後のロケ地の観光客がかなりあるということで、これはバスのツアー、これはうちのほうが把握した数字ですが、申し上げますと、1月が1,500人、それから2月が500人、3月が200人、それから4月が3,000人、5月が4,000人ということで、5月まででいきますと9,200人ということで、バスのツアーが来ております。そのあと、ほかに個人で来たりとか、うちのほうが把握していない団体の客もあると思いますので、この関係でいきますと、かなりの集客があるということで理解をしております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

ツアーでずっと伸びが起きているようですが、今、9,200人ですかね、バスにすれば相当台数が武雄に流れ込んでいるということになるわけですけど、このバスツアーとかいうのが起っておりますが、そういう企画といいますか、そういったものも行政のほうからバス会社、ツアー会社等々に働きかけなどをして、こういう伸びが出てきたのか、そういうところでお尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

事務的には営業部、観光課、あるいは戦略課ベース、そして、もう少し上層部になると副市長レベル、そして最高レベルは私からバス会社、あるいは航空会社等々に積極的に働きかけています。その結果が数字としてきちんと出ているというふうに考えをしております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

まさにここにも市長のリーダーシップといいますか、が如実に出てきた、その結果であるというふうに、また考えてもいいんじゃないでしょうか。そういうバスツアー等がたくさん来たというか、そういうふうにして観光客、日帰り客にしても伸びがあると、これからこの観光に関しては正念場といいますか、腰を据えて頑張っていくわけですが、今後、この観光誘致、この何日間かでのいろんなことをおっしゃっておりますが、その方策等々がありました

ら、もう一度お願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、恐らく全国で一番注目を集めている観光地の一つとして、黒川温泉があると思います。黒川温泉で、ちょっと私は行ったわけじゃありませんけれども、幾つか報告を受けたところ、何が一番感動したかといったことは、観光客が歩きよんさっわけですね、石畳のところ。そしたら、小学生とかPTAの方とか、いろんな方々が「おはようございます」とか「こんにちは」とか、声ばかりでくんさっわけですね。それだけでも観光客の皆さんが喜んで、また黒川温泉と、だから、今一番日本に足りない部分は何かと考えたときに、それを観光地が積極的に提供するというのが、これからの私は観光戦略の流れだというふうに考えております。

そういう意味で、今日本に一番足りないもの、それはすなわち元気だと思います。この元気、特に高齢者、なおかつ、その中でおばあちゃんたちが元気だということが、今沖縄とともに武雄がクローズアップされておりますので、武雄に来たら元気になって帰っていけると、元気のもとに触れるんだと、そういう観光戦略を今後打ち立てていきたいと思っておりますし、日本を引っ張っていこうというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

ありがとうございます。そういうふうな元気な中でも、先ほどのリアカーを引くおばあちゃんが私たちをつくってくれた、このまちをつくってくれたというふうに考えます。

それと、この観光誘致の方策ということで、いろんなことを挙げられておりましたが、確かに先ほど答弁ありましたバスツアー等、そのエージェントさんたちがいろんな営業をこちらの方からかけていって、そういうものが盛んになってきているということですが、これも3月でお尋ねをしたことがあると思いますけれども、外国人の観光誘致、これについては何か特別な方法が方法と申しますか、方策を考えておられるでしょうか。

聞くところによれば、ゴルフ場とかも大分さま変わりをしてくれているようであります。また、花祭ですかね、あそこにおきましては、かなり外国人のお客さんがふえてきておったわけですが、新聞にもありましたが、ああいう結果になってしまっている。そういうふうな外国人を誘致するため、また誘致を仕掛ける、そのこともあわせてお尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

外国人の観光客の誘致はきわめて重要な問題だと思っております。ただ、これはステップが

あって、いきなり旅行代理店に働きかける段階ではなくて、恐らく今、首長がそこにみずから行くことが大事だというふうに考えております。8月か9月に台湾に参ります。台湾に参って、そこで政府の関係者であるとか、旅行代理店の皆さんとか、直接働きかけをしようと思っております。これは首長の仕事だというふうに思っております。

その上で、私は大事だと思っているのは、武雄市のホームページ、あるいは私のブログもそうですけれども、まだ日本語表記しかなかわけですね。今、ある東京の企業が、まず手始めに私のブログを中国語、韓国語、そして台湾語に翻訳して、それで流していきたいと、無料で、そういったことで提携を結んで、まず武雄の情報、あるいは写真を、言葉はいろいろあるにしても、その風景、写真、私はブログで写真を多用しておりますので、そういうことで情報を多言語にわたって発信をするという段階が、今の武雄の段階だと思います。

それで定着をしかけてきたときに、例えば、表示ですね、今、福岡がハングルだったり中国語だったり、道路表記とかありますので、それにつないでいく、だから、今、武雄は第一段階のところなのかなというふうに考えておりますので、ことしはさらに外に目を向けて頑張ってもらいたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

その外国語表記のことでありますけれども、そのことはもうずっと以前から観光課さんのほうにずっと申し入れというか、してくださいというふうなことも言っていましたし、また、その武雄に何人が今お見えになっているか、数字は私はわかりませんが、そういうパンフレットなどについても、数カ国の表記をして、いや実際ありますよね、その表記をしたパンフレットは。しかし、市長の目から見ても、ぱっとしたもんじゃないと思います。私どもの目からしてもそういうふう感じられます。ですから、そういうものも早くつくりかえる必要があるんじゃないかというふうに思います。

そこで、次がばいに話が行くわけでありまして。がばいに話が行くのでありますが、がばい実行委員会というものが立ち上げられて 立ち上げられてというか、もう活動をされているわけでありましてけれども、3月の議会でもこのことは散々取り上げられて答弁をいただいております。そこで、その後、がばい実行委員会が開かれたのでしょうか。

また、3月議会のときでは、その決算といいますか、お金の使い方について、大分質問を23番議員さんのほうからも出されておりました。そのことについてお尋ねします。その出されたのであれば、教えてください。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

佐賀のがばいばあちゃんの実行委員会でございますが、これについて、昨年8月11日に立ち上げをしまして、その後、9月1日、それから、ことしの5月10日に3回目の実行委員会をしております。3回目の実行委員会の折には事業の報告と、それから、決算の報告を行っております。それから、その途中に節目節目で正副会長会を4回ほど行ったところでございます。

それから、決算につきましては、3月の議会で議員の皆様方に決算の見込みを差上げたかと、これは2月の末現在での見込みでございましたが、先日の実行委員会の総会に出した資料と若干その後、支出があっておりまして、2月に出したものよりも、例えば、ロケのマップの作成費の増し刷りとか、あるいは看板の設置、それから、あそこに淀姫さんのところにトイレを設置しておりますので、そこら辺の経費が若干ふえたということで、実行委員会ではそこを含めて決算の報告をしたところでございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

確かに、私も3回目といいますか、過去3回の実行委員会の資料をいただきました。3月議会のときに取り上げられていた決算の報告の見込みと、今度の決算書の数字の違いがありましたので、それを今からお尋ねしようかと思っておりました。先に言っていただきましてありがとうございました。

ですが、このときの決算書、数字のどうのこうのじゃないですよ。このときの決算見込み書とこっちの報告書、若干上がったというその数字の違いはありますけれども、こっちは細かく書いてあったんですね。こっちは、ほか、ほか、ほか、というふうな表示しか、表現かな、しかしていない。要はたくさん協賛金をいただいてされているわけでありまして。もちろんその1,500万円、県からの補助金等々もいただきながら、この実行委員会は進んでいっているわけですが、けど、その多くはやはり協賛金、広告料等で成り立って成り立っているというか、あるわけです。ですから、そのところをもっと詳しく表記していただく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

確かにそのロケ地宣伝費、ロケ地対策費、視聴率アップ等対策費、そして事務費が若干ふえているようであります。そのところ、収入もまたこれから前回とすれば90万円ほどふえているわけですから、そのところもつまびらかにしてもらいたいというふうに思います。

そこで、市長さんは3月の議会のときに、この実行委員会、3月末、もしくは4月の頭になるとは思いますけど、そこで協議をしたいというふうに考えております。その上で、その結論については議会に報告したいというふうに答弁をされております。そしてまた、ガラス張り、透明の中でしたところでありまして。ですから、4月の頭をめどに報告書ということであ

ります。これは、実行委員会での報告といたしますか、そこまでに終わるのでしょうか。それとも、何かほかの方法で多くの市民の人たちにも報告がなされるのでしょうか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

佐賀のがばいばあちゃん実行委員会は、基本的にオープンであります。実行委員会の議決をとって、実行委員会にきちんと報告をしております。折々で議会等にも報告をしたいというふうに考えております。

今、例えば、G A B B A（がば）であるとか、ロケがされておりますけれども、そういったことで佐賀のがばいばあちゃんの実行委員会の中で予算を組み立てておりますので、どの時点、どのタイミングで出していくかと、かなり日によって収入があったり変動があったりしておりますので、それは実行委員長である私がしかるべきタイミングで、また実行委員会、そして議会、市民に御報告をしたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

そうですね、確かに議会でも報告をしていただきたいし、かつ多くの市民といたしますが、協賛団体などなどの協力もいただいておりますけれども、この中には多くの市民の方たちがいろんな場所に置いてあった募金箱というんですかね、その箱に入れられたお金もあると思いますし、またこの活動をしていくについて、多くのボランティア、そのがばいばあちゃんもそうです、武雄のがばいばあちゃんもそうです。多くのボランティアの方たちも、ここにかかわってされてこられたわけですから、ガラス張りで透明で、そしてスピーディーに報告するところは報告するというふうにしていただきたいと思っておりますし、その方法としては、いや、私、ひょっとしたらこの市報に載っているのかなと思って4、5、6月というふうに見てみましたが、やはり載っていなかったもんですから、これを今申し上げたわけです。

もちろん市報はどうかなというふうには考えられるかも知れませんが、市民のところに満遍なく届くのは市報であります。区長さん方が、行政連絡員の方が毎月、そしてその各班の班長さんたちが毎月1日をめどに、各市民に配っておられます。その中に掲載するなり、その中に折り込みするなりなど、方法はあると思っておりますので、そういうことをお願いしたいと思います。そういうふうにするので、協賛をいただいた方たちへのお礼にもなると思うわけですよ。

これも3月言いましたけれども、そのたくさんのお金を、協賛金でありますとか、寄附金という形で納められた業者さんたちなどなど、これはもちろん実行委員の中にお入りですけ



れども、末端のそういう方たちに対してのお礼といえますか、ありがとうございました、いただいたお金はこういうふうに使わせていただきましたというふうなことにもなると思います。特別、協賛金を、また寄附金をいただいたところに何かそういうふうな報告をすると、そういう方たちだけに報告するというのは確かにどうかと思いますけれども　どうかというか、そのことも一つはせんといかんと思うわけですよ。ですから、そういうことも必ずしていただきたいと思いますが、事務局の方でもこういうことはできますか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

協賛の企業、それから団体の方には、実は昨年口ケが終わった後に、一応お礼状を持ってお礼はしております。

それから、お尋ねの企業、それから団体等についての、そういう決算書の送付、そこら辺については検討してみたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

この実行委員会のメンバーを改めて見させてもらいましたけれども、名誉会長古川康、会長樋渡啓祐、副会長杉原豊喜、ずっとありまして、委員の中にも武雄市議会の常任委員長さんたちの名前が挙がっております。これは別件ですけども、やはりこういうふうにして委員として、またはいろんなお役としてこういう方に入っておられるのであれば、私たちはこの実行委員会に出るわけではありませんし、全くわからんわけです、その中の進みぐあいが。結果、新聞を見て、結果、何かのところでテレビを見て、また、ちまたの中でそういうふうな話の進み方を聞いておるわけです。ですから、そういうことも、私たちも議員として、そういう立場の中でかわりを持っていきますし、ここで1,500万円を出した、賛成をした、その責任もあります。ですから、私たちにも速やかに教えていただきたいというか、そういうことを報告していただきたいと思います。

そこで、そのがばいの関連事業ということになります。今後、このがばい実行委員会のみならず、そのがばいということで事業が展開されていくわけで、先ほど市長おっしゃった「G A B B A（がば）」ですね、C D化もされるということでもありますし、いろんなまだ事業予定があると思いますので、そのことを今後どのようにこれを展開していかれるのか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、その情報公開の話でありますけれども、基本的には私は市報に載せるような話ではないと思っております。すなわち、この件に関して言うと、市報も限られたスペースであります。そうであるとするならば、例えば、まだ余り知られていない動く市役所制度であるとか、あるいは定率減税廃止等でこういうふうになるとか、そういった市民ニーズに最もふさわしいものを、私は市報の限られた紙面の中で出すべきだというふうに考えております。限られた紙面でありますので。しかし、これが別にないがしろにするわけではなくて、これもある次元では重要な話だと思しますので、これは営業部にきちんと備えつけのボックスを用意しておきます。それで、議員、市民の方々がごらんになる場合にはいつでもごらんになっていただくと、もう一つ、私は議員の、私の仕事も同じ政治家として仕事の一つとして、こういったことを地区の皆さん、市民の皆さんたちに知らせるというのも、ある意味、議員さんたち、そして、私、政治家としての市長の仕事だと思っておりますので、それは御協力を賜ればありがたいというふうに思っております。

その上で、今後のがばい事業については、一つ、今、あした新聞各紙に載ると思いますが、今、ドラマの撮影が武雄で行われています。それが8月のお盆の前に放映になりますので、これは武雄がロケ地の一つであります。それでまた、そのドラマの放映に向けて、まず盛り上げていくと、せっかくロケをしていただいておりますので、それに向かって、また盛り上がっていくと、その後いろいろなありますけれども、そのドラマと佐賀のがばいばあちゃんのロケ地をまた売り込むということと、もう一つは「G A B B A (がば)」のCD化、そして市内いろいろ回っていただくというふうに考えております。

そういったことを組み合わせることによって、効果的な観光戦略を立てていきたい、その上で、これ繰り返しになりますけれども、ぜひ市民の皆さんたちが観光客とおぼしき方々を見たら、ぜひお声かけをしてほしいというふうに考えておりますので、私もまた皆さんたちと一緒におもてなしの心を持って、観光客の皆さんたちを誘致し、観光客の皆さんが多く訪れることになると、それだけ税収が上がることになります。その税収をもって、数々御質問いただいております子育てであったりとか、あるいは福祉であったり、そういう優先分野にきちんと税金を回していきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

市民の人たちから、私たちは聞かれるわけですよ。あい、どがんなととと、こい、どがんなととと。そして、それを答えようとするにも、そういうふうな報告、またそういうふうな情報が入ってこんことには、何ちゃ言われんわけですよ。いや、どがんにゃいしよんさっじゃなかと、単純な話、そういうふうにご答えてしまうときもあります。いや、ちょっと待

とって、今すぐ調べてきますけん、もちろんそういうふうにもします。けど、なかなか外に出てこないものは知りようがない。

それで、今、市報にはどうかなとおっしゃいましたけれども、確かに市報もこんなにいるんなことがたくさん書いてあります。必ず情報を発信していかなくてはいけないようなこともたくさん書いてありますが、これを使うのも1つの、一番早い手じゃないかなと思ったから、そういうふうにしたんですよ。ですから、セクションのほうでお金を、そういうのがあったら、これに折り込み入れるのも簡単とは言いませんけれども、それも方法じゃないでしょうか。そういうふうにしていただきたいと思います。

今、がばいの関連のことでお尋ねをしておるわけですけど、島田洋七さんの講演会、これに私も見に行きました。物すごくたくさんの方がこれを見にこられておりましたし、私もちょっとおくれていったら、もう中には入れない状態でありまして、新聞によりますと、1,700人やったですかね、大ホールに入ったということでありました。大ホールの定員は何人ですか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

私の担当ではございませんが、約1,400席があるそうです。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

後ろのほう、いっぱいね、立って見よんさったです。私も中に入られんやったけんが、もう小ホールに行かせてもらいました。小ホールは確かに見た目200人ぐらい入っていたと思います。あそこも400人ぐらい入るんでしょう、ですよ。ですから、そこは若干のすきがありましたけれども、そのくらい多かったということです。それだけ興味があった、関心があった、たくさんの人たちがゆったりした感じで見ていただく必要があったんじゃないかなと、これも主催はがばいの実行委員会ですから、そういうふうなことも考える必要があったんじゃないかなと。

なんですか、「地震カミナリ火事オヤジ」やったですか、大ホールでありましたよね。あのときもたくさんの方に来ていただいておりましたけれども、それはちゃんとした席に座れてゆっくりと見られたわけです。私も、できれば大ホールで見たかったし、あの大きな会場の中で、あの雰囲気の中で、熱い雰囲気の中で一緒に体感をしたかったというのが気持ちであります。その中で洋七さんが言いよった、今度の映画の第2弾をつくるということについては、武雄をメインの90何%を武雄で撮影をしたいということであったわけですけども、これに対しても、またそういうふうな撮影のための協賛、寄附、そういったことを計画され

ておりますか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

現段階ではわかりません。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

わかりませんということは、そういうことも考えられるということですか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

首長が、少なくともコメントを発するときというのは、十分な企画、そして十分な戦略があつてから申し上げることであり、常々私はそれを心がけてきております。そういったことで、今まだ考える段階に達しておりません。すなわち、映画の製作委員会が今度立ち上げられ、どういうふうな協議があるかの中で、その中で決めて、また事前に議会、市民の皆さんたちに報告をすると、出すかもしれませんし、出さないかもしれない。それはまだわかりません。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

だから、そういうものもスムーズにする前に、しますと　　しましたというわけにもいかんでしょうから、スムーズにそのことを言っておいていただきたいわけですよ。ごもっとなってからじゃあ遅かけんですね。

そこで、その島田洋七さんの場合はそうですが、今後そういう映画のための製作委員会ができるということですが、それもそのがばいの実行委員会のほうから、その製作委員会の中に入るのか、入られる予定なのか、そしてまた、別立てでその映画に対してのがばい実行委員会は、映画に対して、そういうふうないろんな製作に対して協力をしていかれるのか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まだその段階じゃなかわけですね。島田洋七さんが、自分が監督になって武雄市をメインロケ地として来年の冬、あるいは春に撮影をされたいということで、まだ何のあれもないわ

けですね。例えば、どういうふうなキャストで臨むかとか、あるいは武雄のどこでやるとか、それをもう少し、私に情報を入手させてください。その上で、私は責任ある発言をしたいというふうに思っております。今、佐賀のがばいばあちゃん実行委員会の関与の仕方については白紙であります。わかりません。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

早く教えてください。

それで、テレビの第2弾という話は、その後どうなったでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私はフジテレビの社員でも社長でもありませんのでわかりませんが、基本的には島田洋七さんの言葉をかりると、映画が先で、次がドラマ、アニメというふうに聞いております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

3月の議会のときに、そのテレビドラマは断ったということをおっしゃったと思います。ということは、その後、テレビ局といいますか、そういったほうから製作の計画とか、そういったこともあっていないというふうに聞き取っていいわけですね。そういうふうに聞き取ります。

それでは、がばい、がばいでやっておりましたが、確かに進めることは進めていかんばい、そいけんが、それなりのことを報告してください。また、スムーズにいろんな情報を出してくださいということをお願いしておきます。この「G A B B A（がば）」のCD化、これも進むようでありますし、レゲエですかね、このリズム、非常にとりやすいリズムだと思いますので、このことでまたまた武雄が元気づいていけばいいと思います。

次に移ります。

社会教育についてということでタイトルを挙げておりますが、これは公民館でありまして、武雄、山内、北方の地域審議会から市政に対する意見をまとめた提案書が4月24日に出されております。平成18年の7月から4回の会合を開いて協議をされております。住みやすい地域づくり、市民協働などの8項目が書かれているようであります。その中に、武雄町公民館についてということで、公民館の設置のことも書かれているようであります。これを市長、どういうふうにお受けとめいただけるか、お尋ねします。

以前、田代酒造跡地をとという話がありました。これは公民館のほうの建設促進協議会で田

代酒造跡地は要望をしないと、非常に道が狭く、そしてあそこをもう一度利用するには、相当の費用がかかるし、また、交通等の便も悪いということで、基本的には独立した建物が欲しいということをお話し合っておりましたが、その後、市長と語る会、そこで市民の方から公民館について市長にお尋ねがありました。その中では、市長は新築はできないと、財政に余力がないと、だから、何かそういうふうなリフォームして使える物件があれば言ってくださいと、責任持って対応をいたしますというふうに、そのときお答えいただいています。

また、それを受けて、今度は建設促進協議会では、やはりとはいえ、町内ではもうほとんど選択肢がなくて、だからといって北方、山内の庁舎の空きスペースを使うという、これまたそういうわけにはいきませんので、本来はやはり独立した公民館という建物が欲しいけれども、現実的な考えとして文化会館をリフォームして、右のほうにあります勤労青少年ホームですか、あそこをリフォームして武雄公民館として利用できるようにしてほしいという意見でありました。これは正式にはまだ要望はされておられませんけれども、私もやはり同じような考え方をずっと申し上げておりました。そのことも含めて、どういうふうにお受けとめいただけるか、市長にお尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的な姿勢は市長と語る会で申し上げたことと変わっておりませんので、そのお話については、今、提案をどんどんしていただければというふうに考えております。その中で、最終的にまた協議によって決めたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

そういうふうな空きスペースというか、そういうところがやはり武雄のまちではないわけですよ。ですから、そういうことを当然今後促進協議会で ああ、そうそう、武雄の武雄町の公民館長さんですね、新しくかわられました。後川館長さん、女性の館長さんであります。これまでの館長さんも大変に御苦労いただいて活動していただいておりますけれども、あいにく体のほうの不調を訴えられて、バトンタッチを新しい女性の館長さんにされました。今後、そういうふうな会議等が行われていくと思いますけれども、この地域審議会でも取り上げていただいた問題であります。ぜひ市長も、また副市長もこのことについては、よくお受けとめいただいて、前向きに考えていただきたいと思います。こちらのほうからというか、いろんな提案するにもその場所がないもんですから、ぜひお願いいたします。

そこで、次に、自治公民館についてお尋ねをしたいというふうに申し上げておりました。自治公民館というのがどんな活動をしているのか、どういうものであるか、また、これお尋

ねしたかったのは、私は1行政区に1自治公民館だと思っていたんですが、そうではなかったようで、そこでお尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

自治公民館というのは、住民自治の場でございまして、教育と生活、地元の方々との接点と言える場でございます。具体的には、どういう活動をしていただいておりますかということですが、これはその活動の内容につきましては、住民の方々の総意によって計画は立てられて、地元のまちづくり等の事業をいろいろ展開していただいております。それで、具体的にその地域地域によって、例えば、文化に重点を置くとか、伝統芸能継承に置くとか、いろんな事業をやっておられますので、それは地区地区で違います。

それから、自治公民館の数ですけど、現在市内では135の自治公民館がございまして、行政区の数は107行政区となっておりますので、町によって自治公民館の数が多いところは、特に3町ですね、ございまして、ただ、これにつきましては、その地域のいろんな事情によって自治公民館の設置、それから事業が行われておりますので、それは地域の事情によって、今のような数になっているものというように思っております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

その1つの区に1つの自治公民館というふうなことじゃないということですが、全国にも、また佐賀県的に見ても、そういうことはたくさんあるようでございます。やはりここで私が言いたかったのは、これからずっと社会が変わっていきます。先日もそういう質問がございました。だんだんと地域の人たちが少なくなっていく。しかし、少ない中で自分たちの自治意識を持って、そしていろんな社会活動に参加をしていく。そのために活動の拠点となるのが、やはり自治公民館であり、そこに住んでいる人の多い、少ないは別にして、そこでいかに活動をしていくか、そのためにあるものであって、ですから、なおのこと、その町立、要するに公の公民館、そこと一緒になって、そしてそこから情報を得て、いろんな活動のポイント、いろんな指導を受けながら、そして自分たちの地域の中でまとまっていこうと、頑張っているいろんなことを、もちろん子育てのこともそう、高齢者に対してのこともそう、ごみ一つ出すにしても、子育てをするにしても、やはりその地域の住民の方たちの協力があって初めて成り立つものである、そういう活動をする拠点として、地域の拠点としてが自治公民館であり、そして、その大きくまとまったところでの、その町の拠点とするものが町立の公民館である。周辺といいますか、武雄にはたくさんの町があります。そこにはそれぞれの公

民館をお持ちで、それ以上の活動をされていると思います。ぜひ武雄町の公民館のことについても、前向きにお考えをいただきますようお願いをいたしまして、次に移ります。

公共工事における市民への対応についてということで上げておりましたが、これは中央公民館のことをお尋ねしようと思ったんですが、先日、5番議員さんがお尋ねになりましたので、このことは外しておきます。

そこで、これは維持管理工事というんですか、側溝だとか、道路の補修、これ以前下水道のことでお尋ねをしたことがあります。いろんな事前のお知らせ、住民に対してですね、そういうことをされていますかということで尋ねていましたけれども、そういう小さな工事といふかな、そんなに金額的にはないようなことでも、やはり住民への周知はされているんでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

側溝とか、舗装の補修工事ですね、こういうふうな道路の維持補修は、額的に小ぢいわけです。それで、1件1件発注するんじゃなくて、まとめて発注しております。そういうことから、地域住民の方には発注段階でどうしますという工程がなかなか立てにくいと、そういうところから、業者の方で各箇所を段取りに合わせて地域住民の方にお知らせをしていると、だから、業者の方でいつしますというお知らせをしているという状況です。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

ここんたいばすつきには、そりゃ業者さんでよかでしょうけど、これずっと延長があるわけで、そういうことはやはり行政の方から事細かくじゃなくてでもいいと思いますよ。けど、この期間中、こここのところは、ここからここまでのところはしますよと、そいけんが、そこら辺に住んでおられる方、大変御不便かけますけどというふうな旨のことはしてください。でないと、ひょこっと前の日、仮にね、業者さんが見えになって言われても、日常生活ずっと続いてやっておるわけですから、そこら辺は、そこんたいが住民サービスの一つじゃないでしょうか。お願いいたします。

そこで、先日の質問の中にありましたけど、公園遊具についてちょっとお尋ねします。

使われていないもの、また、その老朽化したものについては撤去をするということでありますけど、武雄の公園と呼ばれるものには都市公園、児童公園、お尋ねしよってわかったことで、支所がまた管理する公園など、たくさんの公園があるようです。管轄がそれぞれ違うもんですから、そこそこに聞いて回るわけにいかんやったもんですから、お尋ねしますが、それらの市が管理しているすべての公園での危険遊具、不用遊具などなどは、もう調査をさ



れて、特に危険遊具については撤去、もしくは処分をされているのでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

まちづくり部で管理している公園につきましては、一応全部チェックというか、点検をします。点検をして、危険と思われる物については撤去、使用頻度が高くてもまだ使えるという物については残すという形でございます。これでいいですか。

議長（杉原豊喜君）

大石北方支所長

大石北方支所長〔登壇〕

北方支所の方で四季の丘公園の管理をいたしておりますが、これは面積が広くて業者も多いということから、管理人を2名置いて常駐させて樹木管理、それから、遊具等についての点検、そういったものをいたしております。点検で故障、老朽と、そういうものがあれば、早急に補修、修繕対策をいたしておりますし、使用に耐えないということであれば、それは撤去をするというようなことで、判断をしながらやっておるところでございます。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

こども部ではS L公園を管理いたしておりますけれども、S L公園につきましても、点検をいたしまして、危険な遊具については撤去をいたしております。あと、使える分については、今メンテをやりながら使っていただいているというところでございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

もうこれで終わりですか、市が管理する公園は。まちづくり、こども、北方、終わりですね。ないですね。山内にはないんですかね。

議長（杉原豊喜君）

藤崎山内支所長

藤崎山内支所長〔登壇〕

お答えいたします。

山内には建設課で管理しています公園、山内中央公園があります。これにつきましては、回転遊具とかいろいろな遊具があるわけですけれども、腐食等変形、摩耗部品、消滅したところですね、以前5基を修理いたしまして安全に努めているところでございます。

また、遊具の点検につきましては、これまでは特殊な施設として専門の業者に見ていただいているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

公園といいますと、うちのほう、観光課のほうで管理しているのが保養村、それから大楠の公園、それから飛龍窯がありますキルンの公園でございますが、大楠、それからキルンの森については遊具はないと思います。それから、保養村については、動物に乗るような遊具があります。あれは危険性もないということで把握をしております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

もうないですね。わからんけん聞きよつとですよ。そいぎ、どこが管理しとんさっか、どこが管轄なのか、公園と言うた上で遊具で言いましたので、ちょっとそちらのほう、わかりにくかったと思いますけれども、言いたかったのは遊具であります。何年か前も、よそでいるんな子供たちの事故があつて、それを撤去せんばいかん、しようということがありました。その時点で調査を、武雄市内いっぱいですね、調査をされたと思います。いや、されたと思います。うんてうなずいてください。されたと思いますけれども、そのまま放置したのでは、それは調査したばかりで何もならんじゃなかか、どがんかあつたときには、また大変子供たちが危険な目に遭うというふうなことを考えたものですから、そのことをお尋ねしました。

それと、これに関連してですけど、今度こういうふうな遊具の補修等をされているということですけども、そういう補修工事ですか、そういったものはどういう業者さん方に発注をされているのでしょうか。地元が発注をされているのでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

遊具の補修につきましては、遊具の種類がスチール製、あるいは木製、アルミ、あるいはそれらの混合したものというふうにいるいろいろあります。それで、修理のときは、どうしてもやっぱり専門業者にお任せするという形になります。一つ一つ部品というか、部材が込み入っていますので、専門業者にお任せしているというところです。

その専門業者につきましては、市内にございませんので、今、発注しているところは市外の遊具専門業者でございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

その補修の方法、修理の方法などがいろいろあるんだろうと思いますけれども、武雄にはもちろん遊具専門の業者がないということではありますが、その中には、この補修の中にはそういうふうにして武雄の町の職人さんてありますよね。そういう方たちでも　でもという言い方は失礼ですけど、そういう方たちをお願いできる工事もあるんじゃないですか、細かく見れば。確かに遊具一つをどうかしようというのであれば、それは遊具専門屋さんでしょう。けど、板を張りかえるとか、そういったことぐらいはできると思います。何かの形でそういうふうに出してくださいということですよ。

それと、その公園のことをお尋ねしたときに、今、あちらこちらから立って答弁していただきましたけれども、やっぱり住民としては公園といえば公園、いっちょて思うとつもんやけんが、やれまちづくり課が管理して、やれこども部が管理してというふうな、なかなか難しい、わかりにくいところがあると思いますので、こういうのも一元化できるのであれば、その管理は一元化してやっていただきたいというふうに思います。

それで、次に移ります。

選挙関係であります。

選挙につきましては、今度7月に参議院選挙が始まります。これまで以上にいろんな意味でヒートアップしそうな状況であります。今回の議案にも出ていますけれども、投票管理者や立会人などの報酬の改正が出ております。そこで、選挙にかかる費用はどのくらいかかるのかお尋ねします。中にはポスター、掲示板とか、いろんな投票箱とかというようなことがあると思いますけれども、それはどけておいて、中でも人件費というか、報酬についてお尋ねをします。

それと、投票所の数についても、投票所の数と開票所の数、すぐに参議院選挙がありますので、今度の参議院選挙ではどのくらいかかるのか、お尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

大宅選挙管理委員会事務局長

大宅選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えいたします。

7月に実施される予定の参議院議員通常選挙の事務に要する報酬等の人件費について申し上げます。

まず、投票事務に要する経費でございますが、投票所の数は市全体で36カ所ございます。投票管理者の現行の報酬単価は12,700円となっております、36名の報酬といたしまして457千円、それから、投票立会人の報酬単価は10,800円でございます、72名分の報酬として778千円、それに事務従事者252名の時間外手当といたしまして9,677千円、合計いたしま

して10,912千円、必要人員につきましては延べ360名を見込んでおります。

次に、期日前投票事務に要する経費でございますが、投票所の数は本庁、山内支所、北方支所の3カ所でございます。投票管理者につきましては、市の管理職にお願いすることになりますので、平日分の報酬はございません。休日に係る分の6日分、18名の報酬といたしまして202千円を見込んでおります。投票管理者の報酬単価は11,200円でございます。それから、投票立会人でございますけれども、単価は9,600円となっております、延べ96名の報酬といたしまして922千円、それに事務従事者192名の時間外手当といたしまして2,310千円、合計いたしまして3,437千円を見込んでおります。必要人員につきましては、延べ336名になります。

それから、開票事務に要する経費でございます。開票管理者の報酬単価は現行10,700円でございますが、開票作業が翌日にわたることを想定いたしまして2名の2日分、43千円、それから開票立会人の単価は8,900円となっております、最大で14名の2日分の報酬といたしまして249千円、それに事務従事者200名の時間外手当が3,760千円、合計いたしまして4,052千円、必要人員につきましては、延べ216名を見込んでおります。報酬と人件費の総額といたしましては18,000千円、全体で必要人員は延べ912名を見込んでおります。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

18,000千円かかるわけですね、投票所、開票所について。そういうふうなこの費用は、当然武雄が出すわけではないでしょうけれども、いろんな費用がかかっているわけです。それを少しでも少なくするためにも、もちろんその武雄の市の選管で行われる選挙、県選管で行われる選挙についても開票時間を短くして、スピードアップをしておられるようであります。開票時間が6市が短縮と、これは統一選のときの新聞でありますけれども、いろんなアイデアで時間を短くして、そしていち早く開票結果を市民の人に、または住民の人にお知らせをしておられるようであります。そういうふうな努力はお認めしますけれども、何といたしても投票率などなどをアップしていかなばいかんと思うわけですね。

そういうことで、前回の知事選挙のときに、ここに7人のがばいばあちゃんが投票率アップに一役買っておられます。こういうことは国政選挙の場合はどうか分かりませんが、そういうことは何か投票率アップのためにお考えでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

大宅選挙管理委員会事務局長

大宅選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えいたします。

投票率アップのために行っております市独自の啓蒙活動といたしましては、広報車によります巡回広報、これにつきましては、公示日から投票日の当日まで行っております。それから、選挙広報、市であります白バラの発行、ケーブルテレビを通じましての広報、オフトークの活用、それと市内の主な店舗、3店舗でございますけれども、店内放送による啓発、それと武雄温泉駅の南交差点でございますカラービジョンによる広報、啓発、それと市のホームページでの広報等を行っているところでございます。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

いろんな方法で投票率をアップするための方法をとっていただきたいと思えますし、がばいばあちゃんが県の選挙のときにあったことを、がばいばあちゃんが協力をしていただいた。いろんな意味でがばいばあちゃんも協力されているなというふうに思います。

そこで聞きたかったのは、もう1つは投票所のことです。投票率アップするためにも、投票所に安全に安心に行けるような投票所を決めてあられると思えますけれども、決めるには何か選定基準があるのでしょうか。どういうふうなことで進められているのでしょうか。

というのは、前回の選挙のときに、投票所までは行ったけれども、そこに上がれんやっただということも聞いていますし、もちろんそこでお手伝いを、その方は障害者の方やったそうです、車いすだったそうですけれども、上がれなかったと。抱えて上げておられることもされておりますし、いろんなことをされておるようでございます。しかし、わかっておきながら、そういうところに投票所を置くというのいかなものかなと。もちろん期日前投票ということで、市役所の1階に来れば車いすでも体の不自由な方でもできるような体制をとっておられるようですけれども、やはり地域で投票するというのが基本でありますでしょうし、そのために期日前投票というのもあるんだよとおっしゃれば、そういうことでしょうけど、みすみすわかっていながら、そういうところに投票所を設けるんじゃなくて、もう少し楽に行けるようなところにつくっていただきたいと思うわけですけれども、そういうお願いですがいかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

大宅選挙管理委員会事務局長

大宅選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答え申し上げます。

投票所の選定基準につきましては、総務省の通達により、まず1項目めに遠距離地区の解消というのがございます。これには、投票所から選挙人までの距離が3キロメートル以上あ

る地区につきましては、投票区の分割、再編成に努めることとされております。2項目めは投票区の規模の適正化でございます。これには、1投票区の選挙人がおおむね3,000人を超えるときには分割をし、適正を図ることというふうにされております。それから、今申し上げた2つの項目に該当しない場合でありましても、距離が2キロメートル以上で、選挙人の数が2,000人を超える場合には投票区の増設に努めるというふうなこととされておるところでございます。

武雄市では、基本的に総務省通達に基づき投票区を設定いたしております。投票区につきましては、投票事務が行われる適当な広さがある施設であるということと、場所がわかりやすいこと、それから駐車場があること、できるだけ階段や坂道などが無いこと、1階で投票できること、できれば土足のままで投票できることを基本に考えておりますが、すべての投票所においてその要件を満たしているわけではございません。投票所によっては距離が3キロメートル以上あるところもあり、投票に来られた方に不便をおかけしているところがございます。対策といたしましては、スロープ、車いす等が設置できるところにつきましては設置をいたしております。

また、旧武雄市の投票所でございますけれども、施設管理者の承諾を得まして、シートを敷き、土足で投票できるようにいたしております。

それから、期日前の投票における投票所につきましては、山内の支所以外は1階で投票できるようにいたしております。不自由をおかけしている投票区にお住まいの選挙人の方には、期日前投票所を御利用いただくのも1つの方法ではないかというふうに考えております。

また、7月に行われる予定の参議院議員の選挙では、北方第2投票所を北方幼稚園から北方支所に変更いたしまして、高齢者、体の不自由な方の便宜を図るようにするなど、投票しやすい環境づくりに努めるということにしているところでございます。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

今、その北方のこともお尋ねしようかと思っておりました。2,000人を超える、また武雄にもそういうところがありますし、朝日にもその2,000人に近づくようなところがあるようでございます。そういうことで、やはりだれでも行けるような投票所にしていきたいと思えます。

次、最後ですが、2007年高校総体についてであります。総体については、大変その運営のために御尽力をいただいておりますし、先日も21番議員さんの方からその警備体制についてお尋ねがございました。私がちょっとお尋ねをしたかったのは、前回漏らした分でありまして、時間がなくて言えなかった分で、またまた時間がなくなってきておりますが、この

ロードレース、この中で、大変町なかといいますか、外を走るわけですから、いろんな県道、市道、国道を使って走るわけですけど、私も自動車で行ったんですけど、車でですからどうかと思いますけど、ごんごんするところが何カ所があったようです。もちろん私が走るわけじゃないし、ちゃんとした選手の方が走るわけですから、そういう競技団体、もしくはそういう方たちがこいでよかよておっしゃっとればそれでいいですけど、もし事故につながりかねないようなことがあったら、これまた迷惑な話でありますので、そういうこともきれいにされているのか、お尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

自転車はすごいスピードで走りますので、路面の状況をぴしゃっと整備しておくというのは、これは最低の条件です。それで、路面の状況等につきましては、それぞれの管理者の方で事前にチェックをしていただきますし、補修をすべき箇所がございましたら、当然早急なる対応をとっていただきたいというように思っております。

また、ロードの開始前の段階でも再度全コースチェックをして対応したいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

まちづくり部としましても、市道を一応自主点検したところでは、それで、議員おっしゃるとおり、数カ所悪いところがありましたので、補修をするということにしております。

ただ、補修しても大会までにまたなるかもわかりませんので、大会が近づけば、またチェックして補修したいと思っています。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

ぜひ安心・安全な競技が、すごいスピードですから安全ではないでしょうが、そういうことで事故があったら何もありませんのでお願いいたします。

それと、女子のバトミントンは白岩であるということで、今度何かまた工事をされるようですね。ただ、その前にトイレとか更衣室等で薄暗いなどの、トイレのにおいがするとか、そういう苦情もあっていましたが、これも改善できていると思いますけど、これもお尋ねをしておきます。

それと、もう1つ、別のことですけど、そのロードというか、高校総体のために選手団の

宿泊は万全であると思いますけれども、その応援団であります。今度の場合は、応援される方、学校関係者、一般の保護者などもたくさんお見えになるとと思いますけれども、こういう方たちの宿泊はどういうふうになっているか。

このことは、以前もちょっとばかりお尋ねしたことがあったですけど、ある高等学校の先生が、4泊5日で武雄に、この自転車であったと思いますけど、応援に武雄に来たいということで、武雄の方にお尋ねをされたそうです。そうすると、結局武雄ではとれなくて佐世保に回されたと、結果的にですよ、あっちに行ったりこっちへやったりとったりしながら、佐世保に回されたということであります。佐世保から武雄まで毎回毎回来るといのは大変だなと、もちろん二、三日のことですから、それでいいのかとは思いますが、この際、何年か前の国体のときは民泊とか、そういうこともあっていたようですけれども、それも武雄流のもてなしの一つではなかったのかなと、もちろん今となっては時間がなくて間に合わないでしょうけれども、そういうことも考えられたんじゃないかなと思うわけです。

そこで、それでそのことについては、市長も以前沖縄のプロ野球キャンプの誘致で、私は前はトイレのことを言いましたので、そのトイレのことで、そういうふうにして地元の人たちの協力があって、大変最初は難しかったが、その協力があって成り立ったということを実例として報告をされました。そういうこともありますので、ぜひぜひと、これ今さらもう遅いと思いますが、されたらなというふうに感じました。白岩体育館のほう、ちょっとお尋ね。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

白岩体育館のトイレですけれど、施設がいかんせん古いものですから、確かに一時期そういうふうなときもございました。それで、5月の中旬に汚水管の排管取りかえ工事をやりましたので、現時点ではそういったにおい等はいたしておりません。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

以前の質問のときに、大会観戦マップをつくられたらどうですかということもお尋ねしておりました。いろんな方がお見えになります。わからない武雄の地形、そしてまたロードなどはそういう、特にわかりにくいでしょうし、警備上もやりやすいと思いますので、そういうことは考えられていますでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長



古賀教育部長〔登壇〕

大会のガイドマップですけれど、これにつきましては、参加者、それから応援の方々、それから地元で観戦なさる市民の方々、たくさんいらっしゃいますので、競技の開催状況とか、それから地図、それから交通機関、そういったものを盛り込んだガイドマップを作成いたしまして配布をしたいと。なお、競技の会場とか、それから駅等にも置きたいというふうに考えております。

それから、交通規制等も問題ございますので、これにつきましても、決定次第、市民の方々への周知徹底を図りたいと、そして協力をお願いしたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

最後の質問です。

この高校総体で武雄市での経済効果はどのくらいになるとお考えですか。予測しておられますか。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

いつぞやの一般質問でそういった経済効果についての質問がなされました。そのとき私、答えたのは1億幾らだったかと記憶をいたしております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

せっかくの経済効果が如実に出てくる大会であります。観光課ですか、の上は何ですかね、営業部、営業部のほうでもこの数値は確認できていると思いますけど、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

うちのほうの営業部の観光課のほうで試算をしたというふうに聞いています。金額は約1億円というふうに聞いております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

以上をもちまして私の質問を終わりますが、やはりいろんなイベント、いろんな行事、大

会などを積極的に誘致して、そして少しでも市税を上げて収入をふやしていくのが肝心であります。いつも言います、自立自援、そういうことで頑張ってくださいと思います。終わります。